

私達の婦人部活動

—地道にゆっくり続ける婦人部活動—

小子内浜漁業協同組合 婦人部
副部長 坂下 ヤエ子

1 地域の概要

小子内地区は、青森県との県境である種市町の中央よりやや南側にある、海と山に囲まれた半農半漁の地区となっている。

小子内浜は遠浅な岩盤地帯であることが特徴で、その地形を利用したウニの増殖場が造成されている。

また、種市町全体にいえることであるが、春から夏にかけて地元で「ヤマセ」と呼ぶ、海からの冷涼な濃霧が押し寄せることが知られている。

2 漁業の概況

小子内地区の主な漁業は、フノリ、マツモ、天然ワカメ、天然コンブ、ウニ、アワビを対象とした採介藻漁業となっている。

ウニ・アワビについては、効率的な採集を目的に「潜水捕り」が積極的に導入され、組合員とともに、婦人部員もウニ・アワビの放流、やせウニの増殖場への移殖や給餌作業を行っている。

3 婦人部の組織と運営

小子内浜漁協婦人部は、昭和31年4月に組織され、現在は部長1名、副部長1名、班長などの役員13名を含む、104名で構成されている。

婦人部の活動資金は、磯掃除等の作業の対価として、漁協からフノリ・マツモを対象とした婦人部員のみの方開けを設定してもらい、それによる水揚げ代で賄っている。

そのため、部員からの会費徴収は一切行わずに運営していることが特徴である。

婦人部発足以来、40年以上にわたる歴史のなかで、諸先輩方をはじめ現役部員の活動が認められ、平成9年に県漁婦連創立40周年記念大会で全漁連会長賞を受賞したほか、数々の賞を受賞してきている。

4 実践活動の状況及び成果

主な婦人部の活動内容としては、漁場環境維持活動、慣習の改善、奉仕活動、三世代交流、部員同士の親睦、地区行事への参加が主なものとなっている。

これらの活動の主な内容としては、次のとおりである。

- ・漁場環境維持活動では、合成洗剤追放運動
- ・慣習の改善では、仏事の簡素化とそうりょう焼き
- ・奉仕活動では、小学1年生への交通安全用黄色い帽子の寄付

- ・三世代交流では、老人クラブと共同で、小学校の餅つき大会への参加
- ・部員同士の親睦では、年1回の親睦旅行
- ・地区行事への参加では、神社の祭典で行う演芸会への参加

今回は、婦人部が特に力を入れている、「合成洗剤追放運動」と「仏事の簡素化」そして「小学1年生への交通安全用黄色い帽子の寄付活動」について報告する。

(1) 合成洗剤追放運動

小子内浜に流れ込む小子内川河口周辺の漁場は、かつてウニ・アワビの良い漁場であったが、年々漁獲量が減少してきた。そのため、婦人部として漁獲量減少の歯止めに協力したい一心で、婦人部発足当時から、初代部長を中心に漁協の職員とともに、合成洗剤追放運動に取り組んできた。

当初は、部員をはじめ地区の住民に運動の趣旨を理解してもらうため、合成洗剤の人体や環境に与える影響についてのプリントを作り、役員と班長が一緒になって地区の全家庭に配付しながら「わかしお石鹼」の購入を依頼したり、地区の会合の場に出向いて、合成洗剤追放運動の主旨説明と協力を呼びかけたり、婦人部員や地区の住民を公民館に参集し、「わかしお石鹼」や合成洗剤に関する説明や勉強会を実施した。

また、婦人部の勉強会として、次のような実験も行った。

それは「わかしお石鹼」を滴下した水と、合成洗剤を滴下した水を準備し、それらに収容した金魚の生残率を調査することで金魚に与える影響を比較し、「わかしお石鹼」の生物及び環境に対する安全性を確認するというものであった。

この結果から、合成洗剤を滴下した水に収容した金魚は、実験開始後10分以内に死亡したことに対して、「わかしお石鹼」を用いた場合は、死亡することなく飼育できたことから、生物や環境に対する「わかしお石鹼」の安全性を認識することができた。

また、昭和60年から62年にかけて、「わかしお石鹼」を積極的に利用した部員を各班から1、2名選出し、婦人部総会で表彰したり賞品を贈呈することで、「わかしお石鹼」の宣伝や普及に努めることに取り組んだ。

以上のような活動の成果が実を結び、今では各班長の家「わかしお石鹼」を用意しておけば、皆が買いに来るようになり、多くの家庭で「わかしお石鹼」が利用されている。

このように、私達婦人部員は「海を愛し、海で生活するものにとって、私達そして子孫のために、この活動は永久に続けなければならない」という意識を持って、これからも合成洗剤追放運動に取り組んでいきたいと思っている。

(2) 仏事の簡素化への取組

様々な地域も同様と思われるが、当地区にも多種多様な行事や風習がある。

それらの内には、次の世代へも継承すべきものも数多くあるが、なかには今の時代に合致しなくなったものもある。

そこで、婦人部が中心となり慣習の改善に取り組んだ成功例として、仏事の簡素化を紹介する。

当地区では、仏事の際に供物として盛り籠を贈る風習があり、ひとたび不幸が生じた家庭では、大量の盛り籠が供物として集まるため、それらの中には不必要なものが大量に発生する。また、不幸のあった家庭では、供物等を頂くたびに「お返し」をするため、

お互いに非常に経費がかさむことが問題となっていた。

そのため、仏事の簡素化については、常に必要性を感じていたため、地区の役員の協力を得て、平成5年から次のような取り決めを作り、取り組むことにした。

- ・近所の方は、盛り籠の代わりに花代をお供えする。
- ・法要の際のお膳は、手作り料理を使用する。
- ・お盆やお正月、初七日等の法事の時は、線香代として1000円をお供えし、そのお返しはしないこと。

これらの取り決めを実行した結果、各家庭の負担を減少させることが可能となった。

(3) 小学1年生への交通安全用黄色い帽子の寄付活動への取組

従来から、婦人部活動の一環として、老人の交通事故防止を目的に、反射材を用いた夜間外出用のタスキを、地元の敬老会に寄付していた。

しかし、「老人の交通安全も大切であるが、子供の安全を守ることも大切ではないか」との意見が部員間から出てきた。そのため、地元の小子内小学校に入学する児童に対して、交通安全用黄色い帽子の寄付をしてはどうかということになり、小学校に相談したところ「そういうことは、大歓迎です」との回答を得たので、婦人部の総会で帽子を寄付することを議決し、昭和63年より毎年実施している。

入学式の際に婦人部長が出席し、新入学生が多い場合は代表の児童に、少ない場合は一人一人に「事故に遭わないように、気を付けて下さいね」と声をかけながら、帽子を被せて挙げると、「はい、気を付けます。どうもありがとうございます」との嬉しそうな返事があり、また、保護者の方にも大変好評を頂いている。

5 今後の課題と問題点

当婦人部の活動方針は、上記活動を中心に「地道にゆっくり、そして長く活動を続ける」ことである。

しかし、最近では、今後も婦人部活動を継続していく上で、早急に取り組まなければならない深刻な問題として、部員の高齢化や新規加入する部員の減少による「後継者問題」が発生している。

他の地域同様に当地区でも、地元に残って漁業を営む青年が少なくなって来ており、また、地元で嫁いできた女性のなかでも、従来からの風習や近所づきあいを嫌い、なかなか地域にとけ込めない人やとけ込もうとしない人が増加している。

このような状況のなかで、従来からの風習を尊重しつつ、若い人を積極的に受け入れ、若い人からも受け入れられる様な、「時代の流れ」に沿った柔軟な組織運営が必要であり、時代に応じて活動方法は変化しても、「地区の発展」と「浜の環境維持」という目的は、いつの時代にも同じでありつづける必要があると考えている。

そのため、私達の活動は、成果を目で見るのが難しく、また、すぐに結果がでない取組ではあるが、地域の発展と各家庭に幸せに繋がるものと信じており、非常に大切なものだと考えている。

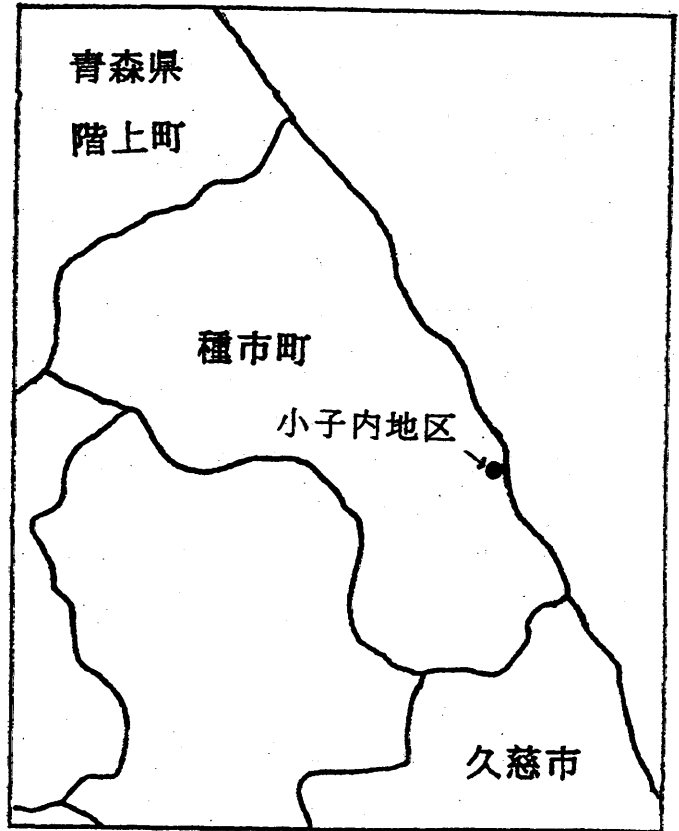
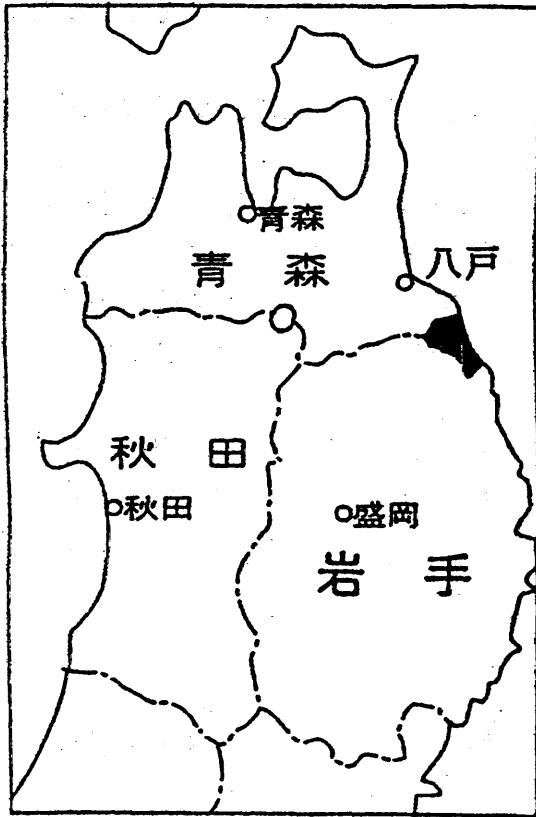


図 種市町の位置

婦人部の活動内容

1 漁場環境維持活動

- ・ 合成洗剤追放運動
- ・ 磯清掃
- ・ 船揚場の清掃
- ・ 浜清掃

2 慣習の改善

- ・ 仏事の簡素化
- ・ そうりょう焼き

3 奉仕活動

- ・ 小学1年生への交通安全用黄色い帽子の寄付
- ・ 墓地の清掃

4 三世代交流

- ・ 小学校の餅つき大会への参加（老人クラブと共同）
- ・ 地区敬老会への参加（料理の提供、演芸の披露）

5 部員同士の親睦

- ・ 親睦旅行
- ・ 料理講習会（婦人会と共同開催）

6 地区行事への参加

- ・ 神社の祭典で行う演芸会への参加
- ・ どんと焼き

表 洗濯用石鹼使用率

組 合 名	使 用 率 (%)
県 平 均	29.4
九 戸 平 均	30.5
野 田 村	20.9
久 慈 市	22.0
中 野 野	23.6
有 家 浜	80.5
小 子 内 浜	112.5
八 木	68.8
宿 戸 家	74.0
戸 類 家	98.4
玉 川 浜	7.9
種 市	18.2

(平成9年4月～11月)

※ 1ヶ月の使用量1.1kgを100%とする

仏事の簡素化

1 目的

仏事の費用を抑え、各家庭の負担を減少させる

2 婦人部での取り決め

- ・盛り籠から花代へ
- ・お膳は手作り料理
- ・線香代は千円
- ・お返しはしない

表 黄色い帽子の寄贈実績

年 度	寄 贈 数
昭和 6 3	1 6
平成 1	2 3
平成 2	1 8
平成 3	1 9
平成 4	1 5
平成 5	1 0
平成 6	1 1
平成 7	1 6
平成 8	7
平成 9	2
平成 1 0	5
合 計	1 4 2

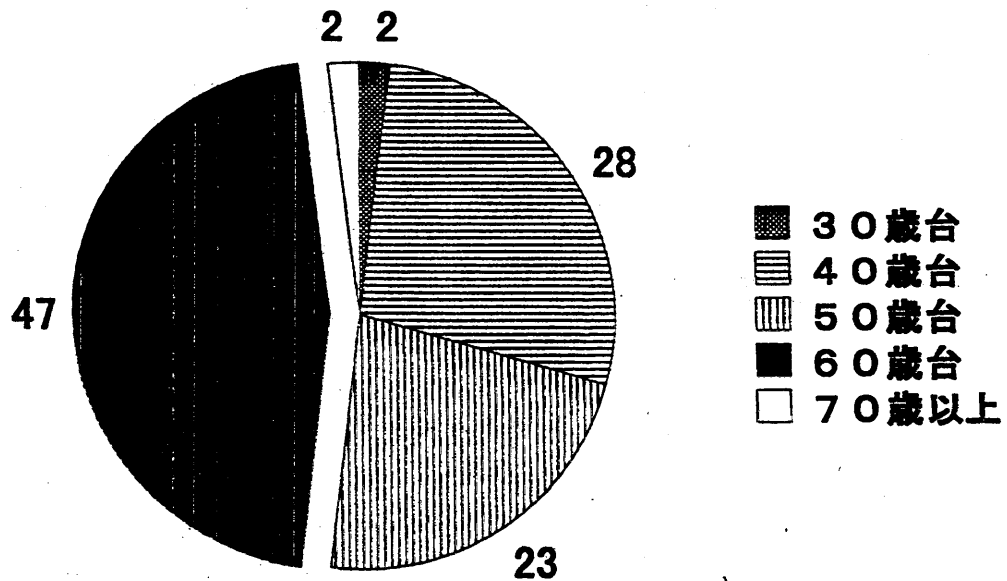


図 小子内浜漁協婦人部の年齢構成
合計102名（平成10年5月現在）